

発行／坂城町公民館 発行人／柄澤 俊彦 編集／広報部 印刷所／(株)シーデンス
〒389-0602 長野県埴科郡坂城町大字中之条 2468 文化センター内
TEL.0268-82-2069 FAX.0268-82-8722



❖主な内容❖

公民館新体制のお知らせ	2P
ふるさと探訪PART114	3～5P
各種行事、500字リレー	6P
春のスポーツ大会	7P
お知らせ、館説「開畝」	8P

納涼音楽会

7月1日(土)に南条小学校音楽堂で第45回納涼音楽会を開催しました。8団体が参加し、皆さんの練習の成果を発表する場となり楽しい音楽会となりました。

就任のご挨拶

コロナを越えて



柄澤 俊彦

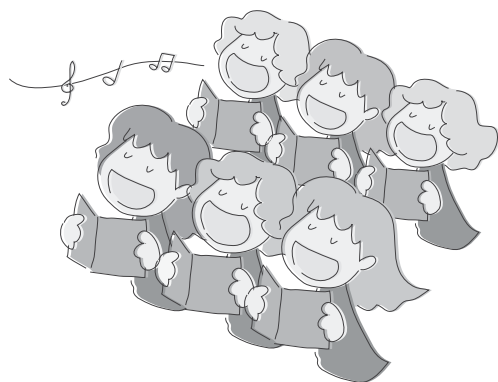
塚田常昭公民館長ご退任後、公民館長に就任いたしました柄澤俊彦と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルスの五類への移行に伴い、公民館活動が再開され始めています。五月には春のスポーツ大会が四年ぶりに開催されました。各分館の皆さんが参加しやすいようにと、例年のソフトボールとビーチボールに、ビーチボール小学生の部とマレットゴルフの種目を新たに加えました。多くの皆さんにご参加いただき「楽しかった」「久しぶりのスポーツ大会で、元気ができました」などの声が聴かれ、好評でした。

七月に行われた納涼音楽会では、坂城音楽愛好会より八団体の

皆さんに参加していただき、開催することができました。会場の南条小学校音楽堂と参加者の皆さんの心の中に、各団体のすてきな演奏が響き渡りました。

コロナを越えて、これまで止まっていた公民館活動が動き出してきています。スポーツ大会等を四年ぶりに開催する分館も出てきました。そんな今、公民館の三つの役割「集う」「学ぶ」「結ぶ」について改めて考えながら活動することで、人と人との結びつきが深まっていくことを願っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



退任のご挨拶

「またやりたいね」

新たな公民館活動へ



塚田 常昭

「またやりたいね。」

四年ぶりに開催された春のスポーツ大会の後、小学生がつぶやいた言葉です。春のスポーツ大会がとても楽しかったのでしょうか。

この三年間は、新型コロナウイルス感染症のため、たくさんの公民館行事が中止になってしまいました。公民館活動は、人々が集うことから始まりますが、その集うことがなかなかできませんでした。集うことができれば、人々との結びつきが深まり、多くの楽しみが生み出されます。新型コロナウイルス感染症は、私たちに集うことの大切さを改めて実感させてくれました。

新型コロナウイルス感染症の分

類も、二類から五類に変更され、アフターコロナを考える時になりました。新しい発想を取り入れ、新たな公民館活動を展開することが求められています。「またやりたいね。」そんな言葉が数多く聞かれるような公民館活動を期待します。

結びに、坂城町の公民館活動を支えてくださったすべての皆様に心より感謝申し上げます。公民館活動のさらなる発展をご祈念いたします。



川と人をつなぐ伝統漁法つけば



はじめに

川音を聞きながら、香ばしい炭火焼きをいただきます。熱々でふわふわの白身は、塩でも山椒味噌でも美味しい。皆さんも行きましたか？初夏になると河原に建つつけば小屋。そこで提供されるウグイ料理は格別ですね。ウグイはどうやって捕られているのでしょうか。今回は、つけばを探訪します！

そもそも「つけば」とは？

河床の産卵床に産卵のために集まったウグイを投網で捕る「瀬付き漁法」のひとつで

す。ウグイはきれいな砂利を産卵場所を選びます。この性質を利用して、ウグイが好むように作った人工の産卵床と、ウグイを捕獲する仕掛けを川の中に設置する漁がつけばです。産卵場所を指す「種付け場」が語源だと言われています。ウグイはほぼ全国に生息している魚で、瀬付き漁法も全国各所で行われていますが、つけばという呼称と、つけば小屋のような場所を設けて料理を楽しむ文化は、千曲川や犀川水系特有です。また、当

地方ではウグイのことをハヤ（鮠）と呼びます。生殖期には体側に朱色の線が現れることから、アカウオ（赤魚）とも呼んでいます。

つけば漁の発祥時期は不明ですが、江戸時代にはすでに行われていました。ウグイは通年食されており、身近な食材だったようです。河原に小屋を建てて料理を楽しむようになったのは、明治時代以降だと考えられます。特にこの地域は、戸倉上山田温泉の開湯・発展とともに、温泉客が

立ち寄る観光スポットとしても定着してきました。

仕掛けには、マヤ（杵つけば）・アゲカワ・ワリカワ・スリバチの四種類があります。これは、千曲川の地形や水量が地域により異なるためです。マヤはやや深いところ、アゲカワは浅いところ、といった具合です。今回のふるさと探訪では、坂城地区でつけばを営む後藤敏一さん・正一さん父子にご協力いただき、マヤつけばをご紹介します。

仕掛け作り

マヤの仕掛けは、水流を調整する杵と、産卵床となる砂利を設置します。杵は投網を打つための足場にもなります。この杵のことをマヤといい、馬屋とも表記されます。川に設置されると写真1のような姿になります。マヤつけばは水深が一・二m～三mの漁場で行います。

杵作りは、陸上で準備をします。まずは、ヒジリと呼ぶ高さ二mほどの三角錐状の木組みを二つ作ります。木材は松や杉を用い、番線で固定します。底部は番線で編み、金網を張ったような状態にします。さらに側面の横木を縄で編むと、三角錐の下部が籠状になります。川に沈めた後、この籠に石を詰めて安定させ、同時に水流を調整します。これは、聖牛という伝統的な水制技術の応用です。ヒジリという名は聖牛に由来するのでしょうか。杵も同様で、水制・護岸に用いる伝統的な水制工の名です。

続いて、杵の前面に取り付



マヤつけば（写真1）

ける「トバ」を作ります。柳の枝を竹棒で押さえ、生垣のように紐で固定します。その年に手に入る竹棒の長さによって作るトバの数は前後しますが、三枚から四枚は必要になります。葉先を下にして杵の前面に隙間なく設置し、水勢を制御すると共に産卵床となる砂利の山を支えます。このトバの姿は、切れた堤防を修復する際、葉の付いた竹と萱を垣状にして下埋めに用いた「屏風返し」によく似ています。

トバ



つけば漁は、古くからある水防の技術をいくつも応用しているのです。

仕掛け設置

四月二十日ごろ、ヒジリを川の中に設置します。岸から一、二m離し、前面を上流へ向け、やや本流側へ開いた角度にします。二つを材木で固定し、河原石を詰めます。水上には牛の角のようにヒジリの上部のみが見えています。この飛び出た部分は切除し、トバを前面に固定します。続いて、

天面に材木を渡して足場板を敷き、ブルーシートでトバごと覆います。さらに畳を敷いて、投網を打つ足場ができました。この場所を踊り場ともいいます。

産卵床作り

杵の前面に大きめの河原石を入れて土台を作り、その上から砂利を流し入れます。こうすると、水面下には富士山型の産卵床が出来上がります。水流で砂利が少し転がるぐらいの勾配で、常に上から新しい砂利

が供給されるようにしています。杵を岸と離して設置するのも、岸との間に水流を生み、砂利に泥がたまるのを防ぐためです。産卵場所がきれいでないとウグイは来てくれません。砂利の管理が大変重要です。

産卵床ができたならマヤは

完成ですが、もう一つ大切な準備があります。杵の下流側の河床を掘り、本流の新鮮な流れが入る生け簀を設けます。そこに、イケタガという箱型の生け簀を浮かべます。イケタガは木製で、後藤さんの手作りです。この中に、漁の初めに捕れたウグイを入れておくと、下流にいるウグイが仲間の匂いを辿って昇って来ます。このウグイをタネとかオトリと呼びます。タネに誘われて昇ってきたウグイは、ここにきれいな砂利を見つけて、産卵場所を選ぶのです。タネを用いるようになったのは、明治時代からだといわれています。

投網漁

仕掛けを設置してから数日後には、たくさんウグイが集まって来ます。漁は、ウグイが活動する午後二時から深夜にかけて行い、概ね五時間おきに投網を打ちます。後藤さんが使用する投網は通常のものより重く、九・六kgもあります。マヤつければ水深が一m以上あるため、通常の浅瀬用の投網では、錘が軽すぎてウグイを捕獲できません。重い錘は速く沈み、集まったウグイまで届きます。アゲ

ヒジリ



上から見た産卵床



イケタガ



投網を打つ正一さん



カワやワリカワなどの浅瀬で行うつけばより捕獲率は下がりますが、一度に一〇kgもかかることがあります。投網の重量と合わせると二〇kg近くになり、川の中から引き上げるのは重労働です。

ウグイを網から外し、生け簀に浮かべたイケタガへ移します。このウグイがまたタネとなり、下流の仲間をいざないます。つけばは、ウグイだけが集まる、ウグイのための仕掛け

なのです。ウグイを捕獲する一方、良質の産卵床を用意しているのが、生息数の維持にもつながります。後藤さんによると、漁期が終わる頃、下流の川端にたくさん稚魚が見えるそうです。

手入れ（カキタテ）

産卵床の砂利は、時間



道具を持つ敏一さん

手入れ作業の様子



が経つと卵だらけになったり、砂や泥などが付着して、ウグイが好むきれいな産卵場所ではなくなってしまう。つけばは、一度作れば後は投網を打つだけ、という漁ではなく、産卵床の

手入れという重要な作業を要します。

後藤さんは手作りの道具を使用し、四日に一度程度「カキタテ」という手入れを行います。この道具は長い柄の先に匙を付けたもので、船の上から砂利を掻き上げて、汚れを落とします。柄にはロープが付けられ、マヤの上にいる人が持つていて、掻き上げると同時に上に引きます。端から端まで時間をかけて手入れをし、最後に新たな砂利を投入します。

このように、ウグイが好む環境を整え続けるのが、つけば漁です。六月上旬まで、投網漁と手入れが続きます。準備と管理に時間をかけて得られたウグイ。次

に頼る時は、水面下の様子に思いを馳せたいものです。

おわりに

探訪してみて、つけばが様々な知恵や伝統を継承していることを知りました。ウグイの生態や川に関する知識、水制・護岸の土木技術、ウグイを食する文化、川端で川魚料理を囲む風習などです。そしてそれは、川と寄り添い、川と戦い、川の恵みを受けてきたふるさとの歴史でもあります。

川は分断の象徴のように言われることがあります。が、つけばを通して地域の歴史に触れた今、もう一度千曲川を眺めると、かつては別々の郡、別々の村だったこの町を、川が縫い留めているように見えてくるのです。同時に、昔の人の暮らしと、現代の私たちの暮らしも、決して断絶してはおらず、脈々とつながっていることを感じます。

（本間 美麻）

大きなウグイ



さかきふれあい大学各種講座が開講!!

さかきふれあい大学各種講座が、新型コロナウイルス感染症の感染予防を講じ、開講しました。

公民館文化講座

4月14日(金)、令和5年度坂城町公民館文化講座開講式が行われ、13講座15教室の学びが始まりました。この講座は、新たな学びに挑戦しようとする初心者を対象としております。年度途中からの受講も歓迎です。講座内容については、ご家庭に配布されました生涯学習情報「まなびの玉手箱」をご覧ください。



リトミック教室

文化センターで歌やリズム遊びを通じて、豊かな感性や情緒を育むお手伝いをする「リトミック教室」がスタートしました。中沢敏江先生のご指導のもと、元気な歌声やリズムカルな運動をして楽しんで教室に参加されています。定員に余裕がありますので、興味のある方は坂城町公民館までお問い合わせください。



教養講座 春の合同茶会

4月29日(土)文化の館にて「第34回春の合同茶会」が開催されました。2018年以来5年ぶりの開催となった今年は、本席が裏千家、立札席が表千家でした。約110人の参加があり、春のお菓子とお茶をいただきながら「和」を満喫しました。



専門講座

坂城の里山に登ろう

5月28日(日)「坂城の里山に登ろう」が開催され、笹ノ平から五里ヶ峰(1094.4m)、葛尾城跡を登りました。天気にも恵まれ、さかき里山トレッキングクラブの皆さんの講師のもと、参加者全員が登頂でき、山頂での景色を楽しんでいました。里山の自然や歴史に触れ、坂城の魅力を再発見できた素敵な一日となりました。



親子で参加 川の学校

6月24日(土)、25日(日)、さかきふれあい大学「親子で参加川の学校」が開催されました。小学生13名、保護者11名の参加があり、講師の後藤敏一さん、正一さんの指導のもと1日目に仕掛けを作り、2日目には舟に乗り魚を釣り上げました。ナマズやニジマスが釣れ参加者は大喜びでした。



500字レポート

忘れられない出来事

高野 美智子

坂城町の農産物を加工して販売する仕事に
関り、私は初めて食品を作る側の責任につ
いて知りました。

安心・安全と言うからには保健所の研修を
受け、検便や巡回指導に対応するなど日々
の管理も必要になります。

でも皆で分担しながら、このまま製造と衛
生を両立させ順調に進められると思ってい
ました。そんな時(十年程前の事です)県外
のお客様から弊社のジャムが一本返品にな
りました。ジャムは開封されており、手紙
も添えられていました。

「おいしく食べていたら途中で異物に気づ
いた」と、そんな内容でした。

確かにビンの中には異物がひとつ入って
おり、目の前の事実には一言もありません
でした。

でも製造担当者の「最後に閉めるまでに何
回もチェックしている。異物に気づかない
訳がない!」という一言を信じ、食品衛生協
会へ持ちこみ検査をいただきました。

後日送られてきた結果は「異物に加熱され
た形跡がない。異物の内容にジャムが浸透
していない等々。以上の事から異物は開封
後に混入されたのではないか。」との事でした。

この時ほどうれしくて、同時に製造体制や
チェックの積み重ねが大切だと感じたこと
はありません。忘れられない出来事でした。
次は、査掛 里佳さんをお願いします。

❀❀ 第47回 春のスポーツ大会 ❀❀

第47回春のスポーツ大会が5月21日（日）に文化センター体育館と町内グラウンド、ねずみ橋マレットゴルフ場にて開催されました。2019年以来4年ぶりに開催された今年は、多くの年代の方が参加できるよう、ビーチボールに小学生の部を追加し、種目にはマレットゴルフを新設しました。ソフトボール13チーム、ビーチボール12チーム（内小学生の部3チーム）、マレットゴルフ17チームが参加し、それぞれの会場で熱戦が繰り広げられ、久々のスポーツ大会を楽しみました。



❀❀ ソフトボールの部 試合結果 ❀❀



A ブロック優勝
中之条



B ブロック優勝
金井



C ブロック優勝
町横尾



D ブロック優勝
泉

❀❀ ビーチボールの部 試合結果 ❀❀



A ブロック優勝
金井 A



B ブロック優勝
鼠宿



C ブロック優勝
網掛



小学生の部
鼠宿

❀❀ マレットゴルフの部 試合結果 ❀❀



上3位
五明 A



準優勝
網掛



優勝
中之条 A

リトミック教室後期受講者募集

リトミック教室後期受講生を募集します。音楽(リズム)を通して人間形成に欠かせない「社会性」、「創造性」、「感受性」を育てる楽しい講座です。親子でのご参加をお願いします。

日時 10月4日～2月21日 毎週水曜日
午前10時～午前11時30分

会場 図書館 2階

指導者 中沢敏江さん
(リトミック研究センター特別講師)

対象 1歳半～3歳児とその保護者

受講料 4,000円

短詩型文学祭作品募集

坂城町と千曲市で構成する更埴公民館運営協議会では、第28回更埴地区短詩型文学祭を開催します。応募要領と投稿用紙は坂城町公民館にあります。入賞者には、表彰状と記念品を贈呈しますので奮ってご投稿ください。

募集期間 7月3日(月)～8月31日(木)

募集部門 短歌・俳句・川柳・現代詩

投稿料 応募用紙1枚につき500円
(小・中・高校生は無料)

投稿先 坂城町公民館(～7月31日までは文化センター、8月1日～は坂城町役場)

文化センターの事務所移転について

文化センターは令和5年度に耐震補強及び大規模改修事業を行います。このため文化センターの一般の方の施設利用は7月から中止しております。

また、文化センター内の生涯学習係、坂城町公民館の事務所は、8月より坂城町役場2階へ移転します。

文化の館、体育施設等の鍵の貸し出し等については、坂城町体育館内の事務室にあります日直からお借りください。

今まで文化センターで行っていた分館等の印刷業務については、使用を希望する場合は事前に教育文化課生涯学習係あてに連絡をお願いいたします。

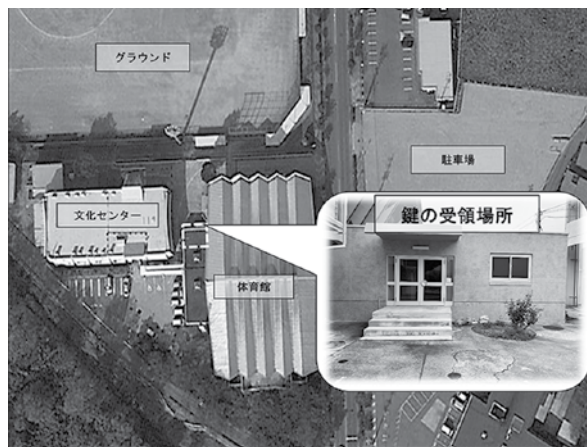
利用者の皆様には、文化センター改修中は大変ご迷惑をお掛けいたしますが、ご理解とご協力をお願いいたします。

移転後の連絡先

〒389-0692 長野県埴科郡坂城町大字坂城 10050

坂城町役場 教育文化課 生涯学習係

TEL: 0268-82-2069



説 館 開 館 啓 事

「公民館」というと、どんなイメージが湧きますか？私は、各地区にある公民館の建物をイメージします。では、改めて「公民館」とは？

公民館は「住民自治と地域連携を基盤とする総合的な地域づくりの拠点」と位置づけられ、それぞれの地域で日々の活動を展開してきました。各種団体との連携・協働と情報の共有・意見交換などを通して時代に沿ったものへと展開し、公民館が中心となり「人づくり・つながりづくり・地域づくり」を行ってきました。しかしながら、社会の変化やコロナ禍の影響等から、公民館活動のあり方についても考えていかなければならない時期となってきたことを感じます。

社会教育法第二十条に規定されている公民館の目的をもう一度大切に考えながら、今の社会に合った公民館活動を進めていかれたらと思うのです。